

被災地の復興のための先端技術展開事業

【430百万円】

対策のポイント

被災地域を新たな食料供給基地として再生するため、先端的な農林水産技術を駆使した大規模実証研究を実施します。

<背景／課題>

- ・東日本大震災の被災地を早期に復興し新たな食料供給基地として再生するため、我が国に蓄積されている多数の農林水産分野の先端技術を組合せ、最適化し、被災地域内で早急に実証する研究を行い、その普及・実用化を促進することが必要です。
- ・このため被災地の復興計画を踏まえ、既に確立された技術シーズを組合せ最適化して導入するための大規模な実証研究を早期に開始し、速やかにその成果を復旧・復興に活用するとともに、最適化された技術を体系化し、成長力のある新たな農林水産産業を育成することが重要です。

政策目標

- 先端技術を用いた被災地の農林水産産業の復興
- 技術革新を通じた成長力のある新たな農林水産産業の育成

<主な内容>

被災地の復興計画を踏まえつつ、被災地内に「研究・実証地区」を整備し、被災地の復旧・復興を促進可能な先端技術の実証研究を実施します。

1. 研究・実証地区整備費

65百万円

- (1) 被災地域内に「農業・農村型」、「漁業・漁村型」の研究・実証地区を設定し各種実証研究を展開するために必要となる環境整備を行います。
- (2) 研究・実証地区内もしくは近傍に、実証研究に関わる全国の産学官の研究者が研究情報の共有や相互の調整を行うとともに、全国の研究機関および農林漁業者等への情報発信を行う拠点機能をもつ開放型研究室を整備します。

2. 実証研究委託費

365百万円

(1) そ菜・果樹実証研究

被災地域周辺で生産可能な野菜中の機能性成分の評価および生産環境に伴う同成分の変化に係る調査、津波被災地でも迅速に展開可能な果樹栽培技術に関する実証研究を実施します。

(2) 施設園芸実証研究

トマトおよびイチゴの高品質な生産を進めるため、太陽光を利用した試験用の大規模園芸施設を設置するとともに、各種環境制御技術及び生産支援システムの導入試験を実施します。

(3) 水産業・増養殖業実証研究

ウニおよびアワビの放流用種苗の増殖システムを導入し、飼育環境を制御した緊急増殖技術の実証研究を実施します。

〔 補助率：定額 事業実施主体：民間団体等 〕

[お問い合わせ先：農林水産技術会議事務局研究推進課 (03-3502-5530 (直))]]

被災地の復興のための先端技術展開事業

【430百万円】

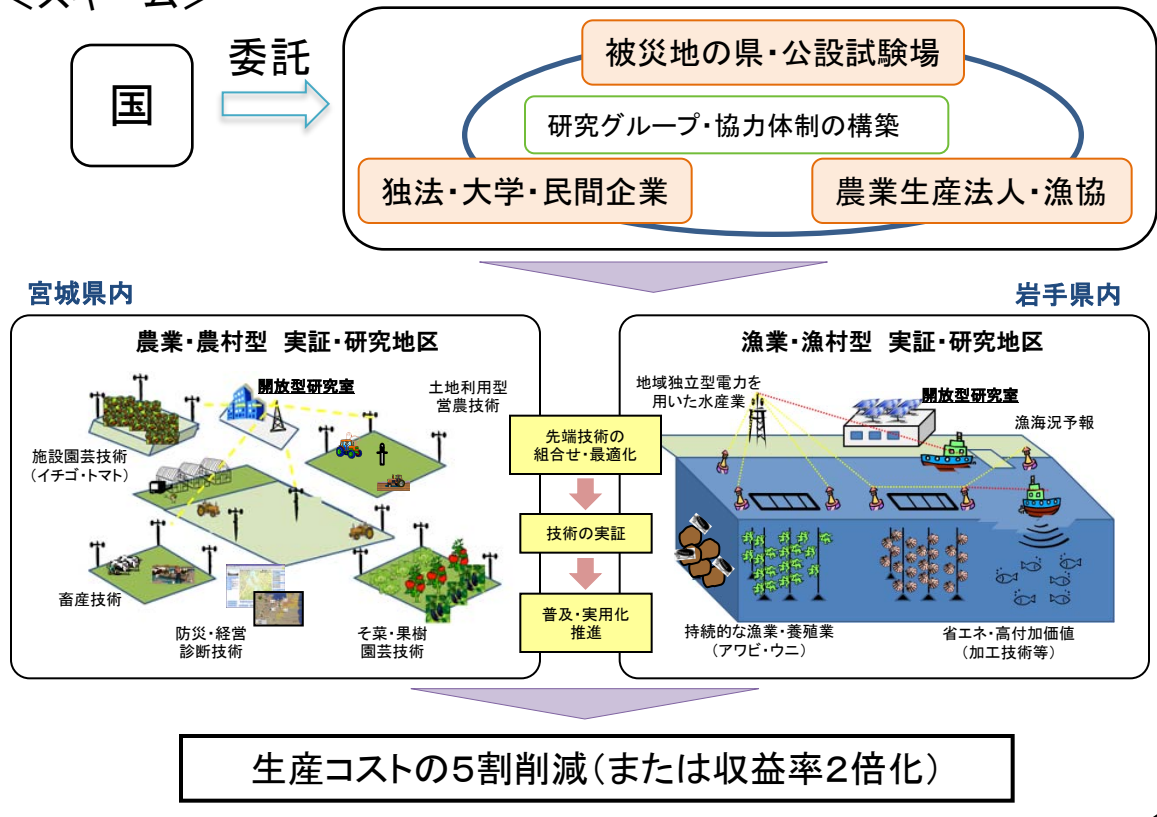
背景

- ◆被災地域では農業生産者が被災しており、一日も早い地域農業の再生に向け、先端技術を駆使した新しい農業技術が必要とされる可能性。
- ◆従来にない規模で先端技術の実証を行い、成長産業としての新たな農業を提案する必要。
- ◆震災により激変した海洋生態系を解明し、科学的知見を活用して漁場や資源の回復を促進する必要。

研究方法

- ◆被災地域内に「農業・農村型」「漁業・漁村型」の研究・実証地区を設定、地域住民と協力しつつ研究を実施。
- ◆この際には、既に確立された技術シーズを組合せ、実用化研究により最適化し、速やかにその成果を復旧・復興に活用。また最適化された技術を体系化し、新しい産業としての農林水産業を支える技術として発信。

<スキーム>



先端技術を用いた被災地の農林水産業の復興
技術革新を通じた成長力のある新たな農林水産業の育成